

令和元年度第1回資金管理委員会議事録要約

[開催日時] 令和元年8月7日(水) 9時55分～11時45分

[開催場所] 兵庫県庁2号館

[出席者(会長◎)]

- ◎ 甲斐 良隆 京都情報大学院大学教授
- 佐竹 隆幸 関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科教授
- 中野 達夫 株式会社格付投資情報センター格付本部公共部チーフアナリスト
- 藤原 賢哉 神戸大学大学院経営学研究科教授
- 米田小百合 公認会計士

1 令和元年度 県債管理基金による債券運用

- 現在の市況が、前回(今年3月)の委員会では想定していなかった低金利環境にあるため、低利率での運用が長期固定化するリスクを考慮し、一定規模の債券運用を行うという前回決定した方針を一時的に凍結する。
- 今後、状況の変化があれば委員会で協議のうえ運用を開始する等、現在の方針に縛られることなく、弾力的な資金運用に取り組まれない。

2 関連公社の資金運用状況

- 一年前と比較して公社が保有する資金運用指針不適合商品は減少するとともに、新たに保有した不適合商品はなく、順調に取組が進んでいる。
- 今後も、資金運用指針に基づく適切な運用について、公社等を指導されたい。

3 令和元年度 県の資金調達状況(報告)

- 低金利環境を活かし、超長期年限を中心に順調な資金調達に取り組んでいる。そのうえで今年度、全年限で他団体フラットの条件での調達を達成している。
- 住民参加型市場公募債は、現在の低金利環境で魅力的な商品設計が困難なことは理解するが、少額であれば県の財政やマーケットへの影響が限定的であること、住民の県政参画の意思に応える貴重な機会であることから、発行を検討されたい。

4 「兵庫県及び関連公社等資金運用指針」等研修会の開催(報告)

- 関係職員の知識レベル向上に寄与する有意義な取組であるため、引き続き実施されたい。